

平成 22 年度 第 1 回 CCC 社会学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時：平成 22 年 6 月 30 日（水）午前 11 時から午後 1 時まで

II. 場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：奥村委員、土屋委員、津田委員、
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、渡邊職員

IV. 議事概要

1. 検討内容 学士力到達目標を達成するための教育モデル案について

・社会学の場合、教員ごとに教育内容・手法に多様性があるが、到達目標 4 についてはデータアーカイブや分析事例などを用意することで学生に練習させることが可能ではないか。それをもう一歩進めると、オープンデータということで、研究にも使えるデータアーカイブになるのではないか。

ICT を使った初年度教育も検討している。学生の到達度や教員の進行具合を確認できるようにする。

・初年度教育のなかで ICT を応用することが可能ではないか。到達目標 4 は標準化可能なので ICT を利用できる。到達目標 2 と 3 については、社会学固有の問題というよりも、一般的授業法の問題ではないか。

大学でもデータアーカイブの構築が進んでいる。講義をオンラインで受けられるようになっている。アンケートによれば、基礎演習において情報検索やプレゼンテーションの仕方がそれほど身につけていないという結果が出ている。共通カリキュラムによる教育が必要かもしれない。

・演習の活性化が課題だが、演習は閉じていく傾向がある。2006 年度の改正により基礎演習の風通しはかなり良くなったが、しかし、いま揺り戻しが来ていて「自分の得意なテーマでやりたい」という声が教員から上がっている。プロセスを共有するというアイデアは良いし、ICT を使えばそれが可能になるかと思うが、それに対する抵抗は強いだろう。基礎演習には TA がつくので、ゼミの議論を記録させてそれをアップさせることはできる。

・1 ゼミの定員は 15 人で少なめにしている。最初は専任教員のみで実施していたが、内容的に定型化してきたので、非常勤教員にも基礎演習をお願いできるようになってきた。負担が大きいため専任教員があまり担当しなくなってきたという問題がある。また、共同発表会での良し悪しが見えることも専任教員がやりたがらない要因になっている。カリキュラム改変の当初は意欲が高かったが、それが落ちてきている。学生のなかでの温度差も問題だ。

- ・ フィールドワークでの ICT 利用には倫理を踏まえる必要がある。成果の公表に際して、報告書になら掲載してもよいがウェブに載せられるのは困るというインフォーマントもいる。
- ・ 昨年度の議論ではミクロとマクロとを行き来することが必要だということになっていた。教員ごとの多様性を重視するとしても、フローチャートのつながりを見せられればよい。教えているとパーツもあって固定化している部分もあるが、いまホットなテーマのつながりを見せて、マッピングしたものを可視化できると良い。ICT を活用するというと難しい話になるが、キーワードごとのつながりを見せていければよい。
- ・ 大学間でそういったものを持ちよって、マッピングができればよいのではないか。

(結論)

- ① 動機づけを広げるために、ネット上でゼミの議事録を公開するなどの場を設ける
- ② 理論の可視化
- ③ データの収集および整理を行い、フィードバックも行う

(「社会学教育における情報教育」の修正)

サイバーFD委員のコメントを踏まえて、内容の修正を行った。

2. 次回までの宿題

本日の議論を踏まえて、授業モデルを提案する。

V. 次回の開催日程

日時：平成 22 年 9 月 24 日 午前 10 時から正午まで

II. 場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室